

三原市立本郷小学校 第4学年 道徳科学習指導案

教材名：「心と心のあく手」

指導者 三原市立本郷小学校 藤澤 真弓

- 1 日 時 平成30年6月18日（月）第5校時（13：20～14：05）
- 2 場 所 第4学年1組教室
- 3 学 年 第4学年1組（男子21名，女子15名 計36名）
- 4 主 題 名 ほんとうの親切 B 親切，思いやり
- 5 本時のねらい ぼくがおばあさんにとっての行動について考えることを通して，「ほんとうの親切」とはどんなことなのかということに気づき，相手のことをほんとうに思いやり，進んで親切にしようとする態度を育てる。
- 6 教 材 名 「心と心のあく手」（「小学道徳 生きる力4」日本文教出版）

7 主題設定の理由

（1）主題について

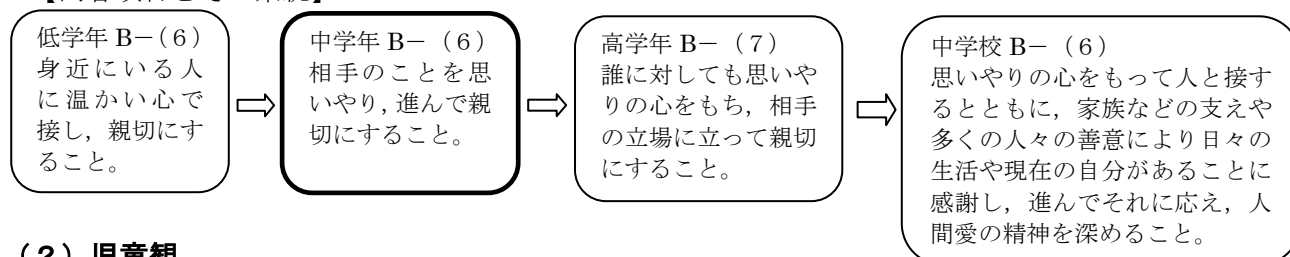
小学校学習指導要領解説特別の教科道徳編では「B 主として人との関わりに関すること」の（6 親切，思いやり）の第3学年及び第4学年指導内容項目の中で，「相手のことを思いやり，進んで親切にすること。」を取り上げている。

よい人間関係を築くには，相手に対する思いやりが不可欠である。思いやりとは，相手の気持ちや立場を自分のことに置き換えて推し量り，自分の思いを相手に向けることである。具体的には，相手の立場を考えたり相手の気持ちを想像したりすることを通して励ましや援助をすることである。また，単に手を差し伸べるだけでなく，時には相手のことを考えて温かく見守ることも親切な行為としての表れである。

相手に親切にするということを安易に考え，軽率な行動をとると，逆に相手を傷つけたり，困らせてしまったりすることがある。このような状況を生み出さないためには，相手の立場や気持ちを深く考え，本当に相手のことを思いやった行動をとろうとする態度を育てることが重要である。

児童の発達段階においては，様々な人々とのかかわりが次第に増えていく中で，相手の気持ちを察したり，相手の気持ちをより深く理解したりすることができるようになる。一方，ともすると他の人々の考え方や感じ方が自分たちの考え方や感じ方と同様であると思い込みがちになることもある。相手の置かれている状況，困っていること，大変な思いをしていること，悲しい気持ちでいることなどを自分のこととして想像することによって相手のことを考え，親切な行動を自ら進んで行うことができるように指導していくことが大切である。

【内容項目とその系統】



（2）児童観

本学級の児童は，学級の仕事を率先して手伝ったり，友だちが困っているときに進んで，親切な行動をとったりする児童が多い。学級のためや友だちのために行動している児童を肯定的に評価したり，学級の児童に紹介したりすることも継続していることで，児童アンケートでも「クラスに親切な人が多い。」と肯定的な回答をした児童が94%であった。しかし「力になりたい。」という思いをもつ児童が多い反面，学級の仕事の手伝いの取り合いでトラブルになったり，思いやりや親切をはき違え，おせっかいな行動をとって，相手に迷惑をかけてしまうことがあったりすることがある。

また，「親切な人ってどんな人ですか。」という質問に対し，「やさしい。」「助けてくれる。」の回答が合わせて79%と最も多く，「話を聞く。」「助けてくれるけどやりたいことは取らない。」「自分のことを思ってくれる。」などの回答もあった。

自分の「力になりたい。」という思いを優先させるだけではなく、本当に相手のことを思いやり、相手の状況や気持ちを考えた上で行動することや相手のことを考えて温かく見守ることの大切さに気付かせたい。

(3) 指導観

本教材は、荷物を持って重そうに歩いているおばあさんに「荷物、持ちます。」と声をかけるが断られてしまった主人公のぼくが、お母さんの話で、病気で体が不自由になったおばあさんが歩く練習をして治ってきたことを知り、再びおばあさんに会ったときには、そっと後ろをついて見守ったという話である。

困っている人の姿を見て、「助けてあげたい。力になりたい。」という気持ちに共感する児童は多いだろう。その気持ちは間違ったものではないが、おばあさんが本当に求めていることとは、だれかの手を借りることではなく、温かく見守ってもらうことであり、そうすることが本当に親切な行動である。ぼくが再びおばあさんに会ったときの場面で、相手の立場や気持ちをよく考えて行動するというところこそ、真に相手を思いやるということであるということに気付かせたい。

指導にあたっては、主体的な学びにしていくために、まず導入において、「親切な人はどんな人なのか。」を考えさせ交流し、今の自分たちが思う「親切」の価値観を共有する。そこで、「みんなが言ってくれたことは『ほんとうの親切』と言えるのかな。」と改めて問いかけることで課題意識をもって本時の学習に臨めるようにしていく。

対話的な学びにしていくために、基本発問前に「ぼくはどうするだろう？」と問い、ペアで交流させ、おばあさんに再び出会ったぼくの状況について、自分の意見と他者の意見を比較・共有させる。その後の基本発問で「ふたたびおばあさんに会ったぼくはなぜ声をかけなかったのかな。」と問い、自分の考えを友だちの考えと比較しながら聴きあえるような雰囲気にしていく。また、中心発問として「ぼくのしたことが『ほんとうの親切』と言えるのかな。」と問い、互いの考えの理由を交流していく。「ほんとうの親切」について児童間で多面的・多角的な意見交流を図る。意見の交流がより対話的なものになるよう、「〇〇くんがこう言っているけど、みんなはどう思う？」と問い返し教師が意図的にコーディネートしながら、「〇〇さんが言ったことは分かるけど自分なら反対に・・・」「ぼくはこう思いました。つなげてください。」など、児童間のつなぎ発言を中心にねらいに迫るよう進めていく。

深い学びにしていくために、指導方法の工夫として、問題解決的な学習で展開していく。まとめとしての展開後半で授業の初めの課題にもどって、「親切」についての新たな発見を、ぼくの心と自分の心のもち方を重ね合わせて自分発見シートに書かせていく。そこで、「例えば」などの言葉を用いて「例えば、今度クラスで友だちが困っている時に『どうしたの?』って相手の気持ちを聞いてから自分にできることをするようにしたい。」など具体的な実生活の場面を書かせることで、児童の意欲につなげ、相手の状況や気持ちを深く考え、本当に相手を思いやった行動をとろうとすることの大切さを実感させ、進んで親切にする態度を育てていきたい。

◎研究テーマとの関係

【研究主題】

「誰もが学ぶ喜びと自信がもてる、主体的・対話的で深い学びの創造」

○主体的な学び

- ・導入時に道徳的問題にふれ、課題意識をもつ。
- ・自分自身との関わりでとらえ、考える。
- ・新たな学びを自覚する。

○対話的な学び

- ・協働し、対話する学び。
- ・多面的・多角的に考える。

○深い学び

- ・教師の指導方法の工夫により、新たな気づきや変容がある。

8 本時の展開

(1) 準備物

場面絵、掲示用の短冊、ワークシート（自分発見シート）

(2) 学習の展開

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応	指導上の留意点 (※評価)
導入	1 今の自分をふり返る。 	親切人ってどんな人ですか？ ・こまわっているとき助けてくれる人 ・手伝ってくれる人 ・自分のことよりほかの人をゆうせんしている人 ほんとうの親切って・・・	○「親切」について意見を交流させる中で、本時の学習への方向付けを行う。 ○展開後段で比較させるために、自分発見シートに書かせる。 ㊦ 課題意識をもって本時の学習に臨めるように、ねらいとする道徳的価値に対しての問いをもたせていく。
展開	2 教材「心と心のあく手」を聞いて話し合う。	おばあさんに声をかけた「ぼく」はどんな気持ちだったのだろう。 ・重そうだな。 ・手伝ってあげた方がいいよな。 ・知らない人だけど困っているから助けよう。 ふたたびおばあさんに会った「ぼく」はなぜ声をかけなかったのかな。 ・また断られるかも。 ・一人でがんばっているおばあさんをじゃましてはいけない。 (おばあさんの後ろをわざわざついていって声をかけずにいるぼくはどんなことを考えているだろう。) ・おばあさんは手伝ってほしいわけじゃない。 ・手伝わないけど、ほっておけない。 ・心の中でおうえんしよう。 ・おばあさんの思いを大切にしたい。 「ぼく」のしたことは「ほんとうの親切」って言えるのかな。 ・心の中でおばあさんのために行動しているよ。 ・相手のことを思いやって行動してるから、ほんとうの親切だと思う。 ・心の中でおうえんしながらそっと見守ったぼくと最初のぼくはちがうのだろうか。同じだろうか。) ・何かするだけでなく、相手の気持ちになって、相手のためになることをしている。 ・ほんとうに相手の気持ちを考えて行動しているよ。	○問題を明確にすることで、児童の考える視点を焦点化させる。 ○教材を読みながら場面の絵を貼って、状況をとらえさせる。 ○ぼくの行動とその理由を板書に整理し、相手のことを考えるという心に気付かせる。 ㊦ ぼくの気持ちとおばあさんの気持ちを多角的に考えることで、気持ちのずれに気付かせる。 ㊦ 補助発問のあとペアトークを行い、友だちの考えにふれる。 ㊦ 自分発見シートに自分の考えとその理由を書かせる。 ㊦ ㊦ 交流の場を効果的に取り入れながら、補助発問でぼくの初めの行動と2回目の行動の違いについて考えさせることで、相手によりそった行動のもとになる心

		(自分たちの生活の中で「ほんとうの親切」を感じたことがあるかな。) - たとえば、友だちが困っているときに「どうしたの?」って聞いて友だちの気持ちを聞くようにしたらいい。 - たとえば、前に足を骨折したとき、自分でがんばりたいときに、友だちがすぐに手伝うんじゃなくて応援してくれたときにうれしくなったよ。	に気付かせる。 ◎ ⑤ ぼくの心とともに具体的な生活場面を想起させることで、意欲を高めていく。 ※ほんとうに相手を思って、進んで親切にしようとする思いを深め、今後の生活に向けて自分なりに発展させていたか。 ※ほんとうの親切について多面的・多角的に考えていくことができたか。 (ワークシート 発表 見取り)
終末	3 「親切」に対する、自分の新たな学びを感じる。	今日の学び、新たな発見についてふり返りましょう。 「ほんとうの親切」って・・・	◎ 温めた価値を振り返りながら余韻をもって終わる。

9 評価

【評価の視点】

- ほんとうに相手を思って、進んで親切にしようとする思いを深め、今後の生活に向けて自分なりに発展させていたか。
- ほんとうの親切について多面的・多角的に考えていくことができたか。

【評価の方法】

ワークシート 発表 見取り

10 板書計画

